

# 株主の皆さまへ

第101期 中間事業報告書

平成16年4月1日から平成16年9月30日まで

コニカミノルタ ホールディングス株式会社



- 中間連結決算ハイライト ..... 1  
~ 株主の皆さまへ ~
- 統合成果の早期実現に向けて ..... 2
- くらしの中で身近に  
出会えるコニカミノルタ ..... 5

- 中間決算のご報告 ..... 7
- 主要事業の状況 ..... 9
- トピックス・新製品のご紹介 ..... 11
- 会社概況 ..... 13

The essentials of imaging



KONICA MINOLTA

# 中間連結決算ハイライト



## Highlights

- ▶ 統合2年目として統合成果の早期具現化を目指し、経営基盤の整備・拡充に取り組みました。(人材融合の諸施策の実行、ITシステムや人事制度などの経営インフラの整備)
- ▶ 事業ポートフォリオ経営の徹底に努め、情報機器事業・オプト事業に経営資源を投入し、事業収益の拡大と向上を図りました。
- ▶ 当中間期の**連結売上高は5,351億円(前期比1.2%減)**となりました。為替の影響による目減り分や前年同期のコニカ・ミノルタ間の取引による膨らみ分を差し引いた**実質的な比較では約55億円の增收**と見ております。
- ▶ **営業利益は325億円(前期比18.7%減)**、**当中間純利益は82億円(46.0%減)**となりました。営業利益は、為替の影響や統合費用やのれん代の償却などを差し引いた実質的な比較ではほぼ前年並みとなりましたが、中間純利益では法人税等の影響が大きく、実質的にも33億円ほどの減益となりました。
- ▶ 平成17年3月期の**年間連結売上高は1兆1,000億円(前年比2.1%減)**、**当期純利益は250億円(前年比29.5%増)**を予想しています。

### 経営理念》

新しい価値の創造

### 経営ビジョン》

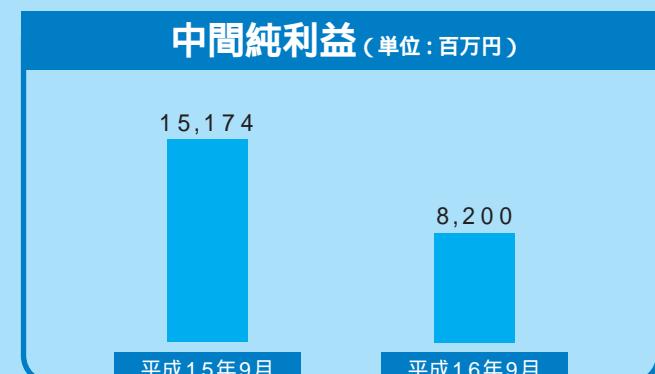
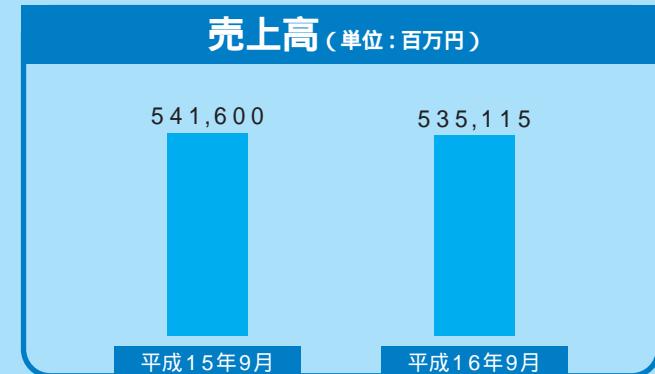
イメージングの領域で感動創造を与え続ける革新的な企業  
高度な技術と信頼で市場をリードするグローバル企業

### 企業メッセージ》

The essentials of imaging\*

\* イメージングの世界でお客さまに必要不可欠なものをご提供し、必要不可欠な企業として認められる存在になる、というメッセージです。

この事業報告書に記載されている当社の現在の計画・戦略および将来の業績の見通しは、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要素によりこの事業報告書の内容とは異なる可能性があることをご承知おきください。



注: 平成15年9月期は旧コニカと旧ミノルタの合算値です。

# Management Interview

コニカミノルタグループは経営統合2年目を迎え  
統合効果を早く目に見える形にできるよう  
新たなステージにチャレンジしています。

代表執行役社長 岩居文雄



当中間期決算について概要を説明して  
ください。

当中間期の連結売上高は5,351億円、  
営業利益は325億円となりました。

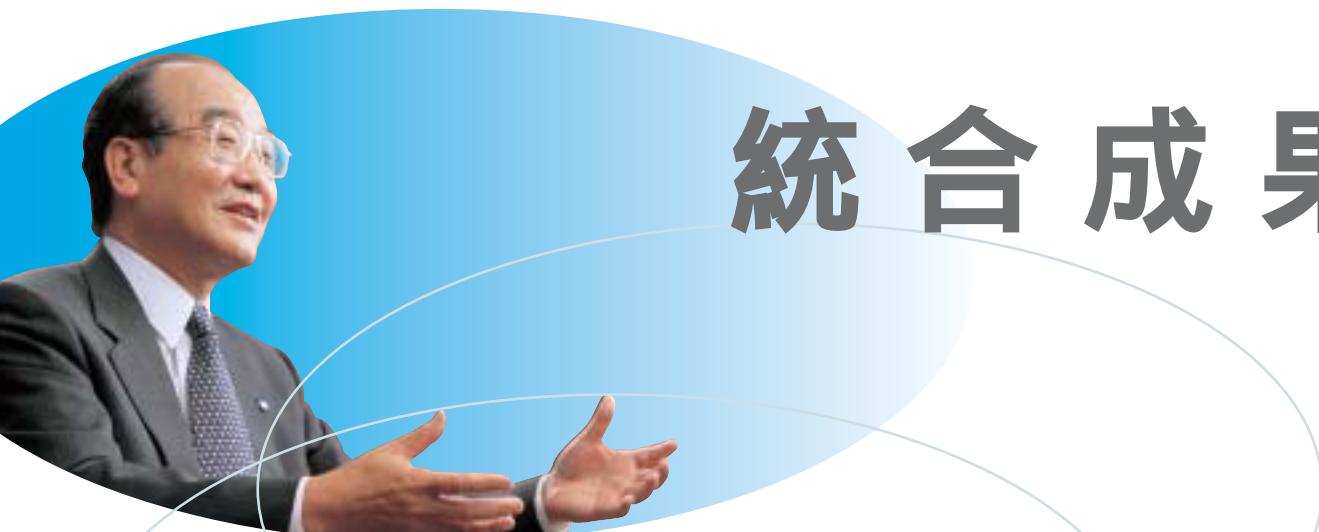
中核事業の情報機器は、注力分野のカラーMFP\*やプリンタが堅調に推移し、売上、利益ともにグループ業績に大きく貢献しました。オプト事業は、主力のピックアップレンズがDVD製品やPCなどの市場在庫の調整で伸び悩みましたが、一方で液晶用保護フィルムの販売が好調だったことなどにより增收・増益となりました。フォト事業は、主にデジタルカメラの価格下落の影響により、残念ながら当期も営業損失を計上しました。

有利子負債の削減については引き続き注力した結果、当中間期末時点では2,664億円となり前期末レベルより若干下げています。

株主の皆さんへ



\* MFP: コピー、プリンタ、スキャナ、ファックス等多様な機能を有する複合機



# 統合成果の早期

Q

統合して満1年が経ちましたが良かったこと、また悪かったことは何でしょうか？

当初の予想どおり、情報機器事業とオプト事業では着実に統合効果が生まれてきています。

情報機器事業では重点分野のカラーMFP・プリンタを中心に、開発力の融合から開発チームにさらなる活力が生まれ、その結果、当社の製品ラインアップは大変強力なものになりました。また、販売面ではスピード最優先で統合を進めた結果、大きな混乱もなく両社の販売店網を維持することができました。これは、この統合が各国の販売店やお客さまからも歓迎されたことと受け止めています。

オプト事業は、最もシナジー効果が大きい分野ではないでしょうか。旧コニカのプラスチックレンズの技術、旧ミノルタのガラスレンズ、駆動系やズームの技術はいずれも非常に高水準で、これらを融合することで圧倒的な競争力を持ち、多様な顧客ニーズに応えることができる世界最強の光学デバイスマーカーを目指しています。

一方、残念ながらフォト・カメラ事業は想定以上にフィルム市場が縮小しており、デジタルカメラの価格競争は熾烈を極めています。当中間期も営業損失の計上となりましたが、抜本的な構造改革を当 下期以降、早急に進めていく考えです。

Q

統合のカギは人にあると言われますが、社内融合の状況はいかがですか？

統合を成功させるキーは、モノやカネではなく人だと考えています。今「人の融合」について最も力を注いでいるのが、全社をあげた「フェュージョン&チェンジ運動」です。

統合前は違う会社の社員同士ですから、文化や社風が違うのは当たり前です。しかし、昨年末に全社員を対象に意識調査を行った結果、元のコニカ、ミノルタに戻った方がよいと思っている社員は1人もいませんでした。この経営統合が全社員から支持されているものと、心強く感じました。

この統合を成功させる上で大事なことは、社員が力をフルに発揮できるよう、過去にとらわれない全く新しい人事の制度や組織、インフラなどの整備だと思います。社員が自由闊達に議論し、1つの目標に向かって力を発揮できる、そうした環境をつくっていくことが私の大きな仕事であり、そこから統合効果は生まれてくるのだと思います。

# 実現に向けて



ガバナンス体制を変更しましたが、その成果は出ていますか？

当社は昨年6月、委員会等設置会社へ移行し、取締役と執行役の機能を「経営の監督と執行」に明確に分離することで、公正で透明性の高い経営を目指しています。スタート当初感じたことは、「求められるマネジメント(=経営)の質が今まで以上に高くなつた」ということです。当社の場合、3つの委員会(監査、報酬、指名)の長は全て社外取締役ですし、社長の私はどの委員会にも属していません。

現在の取締役会では、重要事項に議題を絞り込み、活発な議論が行われるようになりました。ときにはかなり厳しい意見もいただきますが、従来の取締役・執行役員制度のスタイルにはないメリハリのついたマネジメントになり、私はプラスの方が大きいと思っています。



待望のデジタル一眼レフが発売されました、どんな魅力があるのでしょうか？

当社の一一眼レフ「-7 DIGITAL(デジタル)」を11月に発売しました。このカメラは、世界で初めて手ぶれ補正機構をボディ側に搭載したものです。レンズ側に搭載している他社の一一眼レフに対して、この「-7 DIGITAL」の最大の魅力は、今お持ちの全てのレンズで手ぶれ補正が使えるということです。一眼レフの魅力は、交換レンズによって様々な描写が楽しめるのですが、望遠レンズは大きくて重いため、これまで三脚をつけなければ手ぶれを防ぐことができませんでした。しかし、このカメラを使えばだれでも容易に手ぶれのない、シャープな写真を撮ることができます。

先日、ドイツで開催された世界最大の写真関連の展示会「フォトキナ」に参加しました。当社の「-7 DIGITAL」を陳列したスタンドはいつもお客様まで溢れ、「これは、いける」という手応えを感じました。



最後に統合2年目にあたっての思いを聞かせてください。

統合初年は経営機構や組織の改革、事業会社の再編など、いわば経営の形づくりの期間で、ほぼやるべき課題はやり遂げました。統合2年目の当期は「基盤整備期」として位置づけ、その器の中身をつくりあげていく1年だと思っています。ITシステム等の経営インフラの整備やコニカミノルタブランドの浸透など、そして何よりも「人の融和」に最も力を入れていきます。

「变革を成し遂げずして成長はない」、この言葉を常に自分に言い聞かせ、自らを鼓舞して昨年来この統合を進めてきました。この変革の先には必ずや大いなる飛躍が待っていると信じています。

株主の皆さんをはじめ全てのステークホルダーの皆さんにとって、魅力的な企業グループ実現に向か、グループ社員の先頭に立ち、私はこの経営統合に全力を注いでいきたいと思っています。

これからも引き続き、皆さまのご支援ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

カメラやフィルムのイメージが強いコニカミノルタですが、実はオフィス用や業務用機器がグループ売上の約4分の3を占めています。これらの製品は、日頃皆さまのお目に触れる機会が少ないと思いますが、皆さまの身近なところに、コニカミノルタの製品やサービスがあります。その一部をご紹介します。

# 暮らしの中で身近に 出会えるコニカ



キレイで長持ちする顔写真を  
撮りたい

## 自動証明写真システム

駅やスーパー、コンビニエンスストアなどで見かける自動証明写真システム。全国のファミリーマートに約1,000台をはじめ、全国イオン系スーパー、関東エリアを中心としたJR東日本の駅構内、東京メトロ地下鉄の駅構内、その他主要私鉄駅や地域のスーパーなどに設置していただいており、コニカミノルタの証明写真システムは業界トップシェアを占めています。

イメージを印象づける証明写真はキレイに撮りたいもの。コニカミノルタは長年培った写真技術を駆使して、間接照明や反射光を利用したハイグレードなスタジオタイプの撮影環境のもと、キレイな証明写真を提供しています。

# ミノルタ

年賀状も写真プリントも  
インターネットでらくらく注文  
**オンラインラボ**

「お気に入りの画像を年賀状やあいさつ状にしたい。プリントするならやっぱり写真のような仕上がりにしたい。インターネットで24時間いつでも受け付けて欲しい」というご要望に、コニカミノルタのオンラインラボはお応えしています。

コニカミノルタの「オンラインラボ」は、ポストカードやプリントサービスのほかにもシールプリントや画像を入れたカレンダー、キーホルダーなど、写真入りのオリジナルグッズコレクションの制作も行っています。また、撮った画像をネット上でアルバムにして友人や親戚に見てもらったり、その方が気に入った写真を選んでプリント注文ができるサービスも行っています。

オンラインラボのサービスについて、詳しくはこちらへ。  
<http://onlinelab.jp>



hospital

## 快適な診療をサポート

### X線画像のダイレクトイメージングシステム

電子カルテをはじめ医療に関するあらゆる情報のデジタル化。その流れの中で、健康診断や人間ドックなどで撮影したX線画像をデジタル化して、保存・伝送するコニカミノルタのダイレクトイメージングシステムは、全国の大規模病院だけでなく、小規模なクリニックにも導入いただいている。医療関連事業は社会全体に向けて、健康という価値を提供する究極のサービス業だと考え、高度化する医療や多様化するニーズに応えています。



shop

## カンタン、高速、鮮明画質にこだわりたい カラーコピー機

「カラー原稿のコピーを取るときはやっぱりカラーがいい。しかも仕上がりは美しいほうがいい」 キレイな仕上がりの要は色調の再現性。コニカミノルタのカラーコピー機は、画像処理技術と独自開発の重合トナーで細い線や小さな文字は鮮明に、写真やイラストは再現性豊かに高速出力します。あわせてカンタン操作のタッチパネルなど使いやすさを実現しています。また、国内外の環境基準に適合し、環境負荷の低減に努めたカラーコピー機です。

関東地区ではホットスパー、コミュニティ・ストアなどのコンビニエンスストアの一部やイトーヨーカ堂、マイカルなどの大手スーパーマーケットなどの店舗に設置されています。



home

# 中間決算のこ報告

## Financial Section

ここがポイント！



**現金及び預金** ▶706億円となり前期末(平成16年3月末)から130億円取り崩しました。

**たな卸資産** ▶1,807億円となり、前期末比68億円増加しました。

**有形固定資産** ▶2,258億円となり、前期末比56億円増加しました。

材料研究棟(八王子)の建設と情報機器、オプト事業の生産増強のための設備投資等を行ったことによります。

**有利子負債** ▶2,664億円となり、これまでに引き続き、前期末比さらに16億円削減しました。

**株主資本** ▶主として、中間純利益の計上による利益剰余金の増加により3,429億円となり、株主資本比率は35.0%となりました。

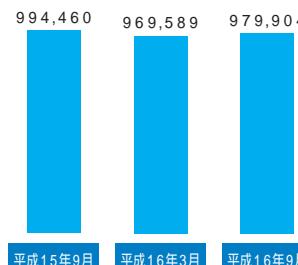
### 連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円、未満切捨)

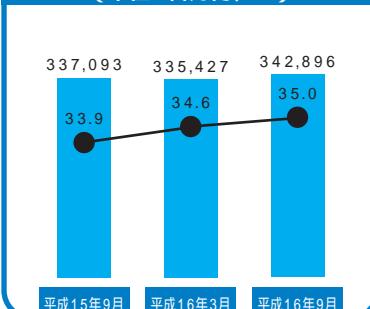
	当中間期 平成16年9月30日	前期 平成16年3月31日
現金及び預金	70,622	83,574
受取手形及び売掛金	236,688	223,032
たな卸資産	180,721	173,949
その他の流動資産	62,937	55,213
流動資産合計	550,969	535,769
有形固定資産	225,763	220,204
無形固定資産	117,626	120,204
投資その他の資産	85,545	93,411
固定資産合計	428,935	433,820
資産合計	979,904	969,589

支払手形及び買掛金	143,961	141,783
有利子負債	266,388	267,951
その他の負債	225,445	223,184
負債合計	635,795	632,919
少数株主持分	1,213	1,242
資本合計	342,896	335,427
負債・少数株主持分及び資本合計	979,904	969,589

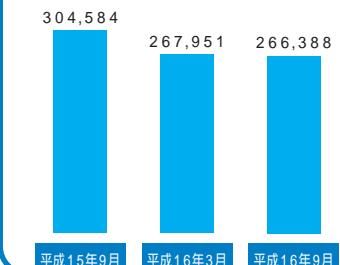
### 総資産(単位：百万円)



### 株主資本・株主資本比率(単位：百万円、%)



### 有利子負債(単位：百万円)



## 連結損益計算書

(単位:百万円、未満切捨)

ここがポイント!

	当中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日	前中間期* 平成15年4月1日～ 平成15年9月30日
売 上 高	535,115	541,600
売 上 原 価	300,469	298,453
売 上 総 利 益	234,646	243,146
販売費及び一般管理費	202,121	203,134
営 業 利 益	32,524	40,012
営 業 外 収 益	7,503	6,554
営 業 外 費 用	11,861	18,122
経 常 利 益	28,166	28,444
特 別 利 益	301	1,332
特 別 損 失	5,220	4,887
税金等調整前中間純利益	23,247	24,889
法 人 税 等	15,023	9,496
少 数 株 主 利 益	23	218
中 間 純 利 益	8,200	15,174

実質ベース(前中間期のコニカとミノルタ両社間の取り引きによる膨らみ分、為替影響などの諸要因を除いたもの)では55億円の増収とみています。

為替による目減り分や経営統合により発生したのれん代の償却費用、統合に伴う費用発生を考慮すると実質ベースでは営業利益はほぼ前年並み、経常利益は15億円ほどの増益となったものとみています。

経営統合に伴う合理化費用を特別損失として27億円計上したことなどに加え、フォトイメージング事業で赤字計上したことにより税効果をみるとが、法人税が増加しました。その影響で実質ベースでも約33億円の減益となったものとみています。

ここがポイント!

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、未満切捨)

	当中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日	前中間期* 平成15年4月1日～ 平成15年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,543	38,345
投資活動によるキャッシュ・フロー	27,325	11,926
+ フリー・キャッシュ・フロー	4,782	26,419
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,278	22,854
現金及び現金同等物に係る換算差額	859	135
現金及び現金同等物の増減額	13,199	3,430
現金及び現金同等物の期首残高	83,704	85,245
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	447	843
現金及び現金同等物の中間期末残高	70,951	89,518

運転資本と法人税等の支払いの増加により、営業活動によるキャッシュ・フローは225億円にとどまりました。

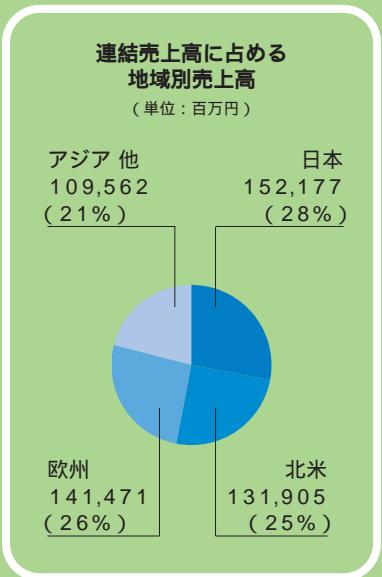
情報機器事業とオプト事業の生産増強のための設備投資等を行い、投資活動によるキャッシュ・フローは273億円のマイナスとなりました。

社債の償還を中心に有利子負債の削減を行い、財務活動によるキャッシュ・フローは93億円のマイナスとなりました。

\* 前中間期は旧コニカと旧ミノルタの合算値であり、連結消却処理は行っていません。

# 主要事業の状況

## Review of Operations



注1: 売上高はグループ内取引を除いた外部顧客に対する売上高です。  
注2: 実質ベースとは、為替の影響による目減り分や前年同期のコニカ・ミノルタ間の取引による膨らみ分を差し引いた実質的な比較を意味しています。

### 情報機器事業



売上高 281,394

営業利益 26,733

(単位:百万円)

MFP事業では、カラーMFPやモノクロ高速MFPなど付加価値の高い製品の販売を拡大。プリンタ事業でも、欧米中心にカラープリンタの販売拡大に注力。(実質ベースでは、売上高が38億円の増収、営業利益は17億円の増益)

本年3月に発売開始したカラーMFPの戦略商品「bizhub C350」が、各国市場で販売好調。カラーMFPの販売台数は前年比72%増。

モノクロMFPも堅調に推移し、販売台数は7%増。

カラープリンタは低速セグメントの戦略商品「magicolor 2300」の販売が好調に推移し、前年比60%増。

### オプト事業



売上高 44,008

営業利益 7,200

(単位:百万円)

光ピックアップレンズや液晶偏光板用フィルムを中心に、前年比で增收・増益。(実質ベースでは、売上高が54億円の增收、営業利益は16億円の増益)

主力の光ピックアップレンズ事業は、CDやDVD機器用が生産調整局面に入ったが、販売シェア維持に努める。

デジタルカメラ用のレンズユニット事業は、第2四半期以降需要が鈍化。

カメラ付携帯電話用のレンズユニットや液晶偏光板用フィルムは、強い需要を背景に販売堅調。

## フォトイメージング事業



売上高 142,824

営業利益 4,004

(単位:百万円)

フォト事業の市場環境は厳しいが堅調に推移。デジタルカメラの急激な価格下落により損益が悪化。事業収益性改善を目指した構造改革を急ぐ。(実質ベースでは、売上高は56億円の減収、営業利益は45億円の減益)

カラーフィルムは、ロシア・中東・アジア地域での販売強化にプライベートブランドなどの取り組みを展開。

デジタルミニラボ「R2 SUPER」の海外販売好調により前年比50%増。印画紙もそれに伴い販売堅調。

デジタルカメラは、価格下落や旧製品の在庫処理で収益が悪化。

## メディカル& グラフィック事業



売上高 60,900

営業利益 4,311

(単位:百万円)

医療分野を中心に堅調に推移。(実質ベースでは、売上高は34億円の増収。営業利益はほぼ前年並み)

医療分野は、デジタルX線入出力機器やそれに対応したドライフィルムの販売が好調に推移。

印刷分野は、国内市場でのフィルム需要減少に対応し、色校正機器やデジタルダイレクト製版機などの事業へ転換を図る。

## 計測機器事業



売上高 2,643

営業利益 873

(単位:百万円)

色計測機器を中心堅調に推移。

大型液晶テレビなど、フラットパネルディスプレイ業界向けの光源色計測機器の販売が好調に推移。

物体色計測機器では、自動車産業をターゲットとして販売拡大に注力。

## デジタル一眼レフカメラ 「α-7 DIGITAL」を発売

世界で初めて<sup>\*1</sup>ボディ内蔵の手ぶれ補正機構を搭載した、有効画素数約610万画素のレンズ交換式デジタル一眼レフカメラ「コニカミノルタ α-7 DIGITAL(デジタル)」を11月19日に発売しました。同機種は、コニカミノルタ独自のCCDシフト方式手ぶれ補正機構「Anti-Shake(アンチシェイク)」をボディに内蔵しているため、すべてのレンズで<sup>\*2</sup>手ぶれ補正効果を得ることができます。薄暗い夕景の撮影、望遠撮影、マクロ撮影などでフラッシュや三脚を使うことなく手ぶれを抑えた撮影が可能です。

\*1 レンズ交換式デジタル一眼レフカメラにおいて世界初。

\*2 AFマクロズーム3X-1Xでは、手ぶれ補正機能OFFでご使用ください。



一眼レフ史上  
二度目の衝撃。

1985年、世界ではじめて一眼レフにボディ内蔵オートフォーカスを搭載した α-1 が、2004年、再び世界を騒然とさせる。世界初<sup>\*1</sup>、ボディ内蔵手ぶれ補正機能 搭載。

## 高速デジタル機

### 「bizhub PRO 1050 / bizhub PRO 1050P」 を発売

情報機器「bizhub(ビズハブ)」シリーズのラインアップとして、高速デジタル機「bizhub PRO 1050 / bizhub PRO 1050P」を11月下旬より発売しました。

電子写真方式(複写機やプリンタと同じ方式)で対応する軽印刷市場向けPOD(オンデマンド印刷)は、当社の強化事業の1つです。本製品は、片面/両面毎分105ページ(A4ヨコ)の高速出力と、表裏印字位置精度0.5ミリ以内という高い精度を実現しています。また、綴じ・折り加工などを行って小冊子として出力するまでの処理を1台のマシンで対応可能にする、充実したオプションを取り揃えています。



# トピックス・新製品

# のご紹介



## 日本女子プロゴルフ選手権 大会コニカミノルタ杯を 特別協賛

当社は、日本女子プロゴルフ界最高峰のトーナメント「日本女子プロゴルフ選手権大会」に、コニカミノルタ杯として8年間にわたり特別協賛しています。

今年の大会は9月9日から12日の4日間、栃木県益子の太平洋クラブ＆アソシエイツ益子コースで開催されました。好天にも恵まれ、14,000人を超えるギャラリーの方々にお越しいただきました。最終日には若手ホープの宮里藍選手が追い上げたものの、ベテランの肥後かおり選手が2位に5打差をつけて7アンダーで優勝し、公式戦3冠王を達成しました。



優勝者の肥後かおり選手(右)と社長の岩居(左)

会場では、フォトサービスや抽選会などを実施して大会を盛り上げるとともに、収益金を地方の福祉関係団体に贈らせていただきました。

## 株主の皆さまのご質問にお答えします。

Q: 旧商号の株券(コニカ、小西六、ミノルタ)が手許にあるのですが、どのようにしたらよいのでしょうか?

A: 「株券再発行請求書」の用紙を取り寄せてお手続きください。取り寄せは、当社の名義書換代理人であるUFJ信託銀行証券代行部(電話:0120-232-711)へご連絡ください(受付時間:土・日祝日を除く9:00~17:00)。この請求書と株券現物のご提出後、新商号(コニカミノルタホールディングス)の株券が送付されます。

Q: 現在所有している1,242株のうち242株を整理したいのですが、どのような手続きをすればよいのですか?

A: 当社株式は1単元(市場で売買できる単位)が500株です。したがって、242株については市場での売買はできませんが、当社に対して買い取りの請求ができます。あるいは、258株を当社から買い取って1単元500株にすることもできます。いずれの場合も所定の請求書による手続きが必要です。名義書換代理人のUFJ信託銀行証券代行部へご連絡ください。

Question & Answer

# 会社概況

## Corporate Data

### 役員(平成16年9月30日現在)

取締役	
取締役会議長	植松 富司
取締役	岩居 文雄
取締役	太田 義勝
取締役(株式会社島津製作所相談役)	藤原 菊男
取締役(株式会社小松製作所相談役特別顧問)	片田 哲也
取締役(ダイキン工業株式会社代表取締役会長兼CEO)	井上 礼之
取締役(明治乳業株式会社代表取締役会長)	中山 悠
取締役	東山 善彦
取締役	小板橋 洋夫
取締役	本藤 正則
取締役	河浦 照男
取締役	石河 宏
執行役	
代表執行役社長*	岩居 文雄
代表執行役副社長*	太田 義勝
常務執行役*	本藤 正則
常務執行役*	河浦 照男
常務執行役*	石河 宏
常務執行役	岩間 秀彬
常務執行役	河野 盾臣
常務執行役	染谷 義彦
常務執行役	藤井 博
常務執行役	松丸 隆剛
常務執行役	宮地 剛
常務執行役	山名 昌衛
執行役	大浦 三治
執行役	小野寺 薫
執行役	木谷 彰男
執行役	齋藤 知久
執行役	中村 正
執行役	古川 博
執行役	堀 利文
執行役	松本 泰男

注1: 取締役 藤原菊男、片田哲也、井上礼之、中山悠の4氏は、商法第188条第2項第7号/2に定める社外取締役です。

注2: \*は取締役を兼務しています。

注3: 取締役を兼務しない執行役は役位別50音順に記載しています。

### 会社概況・株主メモ(平成16年9月30日現在)

商号	コニカミノルタホールディングス株式会社
創業	1873年(明治6年)
株式会社の設立	1936年(昭和11年)
資本金	37,519百万円
従業員数	132名(グループ従業員数 34,033名)
本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング
関西支社	〒550-0005 大阪市西区西本町2-3-10西本町インテス
決算期	毎年3月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-3 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 UFJ信託銀行株式会社証券代行部 TEL:(03)5683-5111
同取次所	UFJ信託銀行株式会社全国各支店 野村證券株式会社全国本支店

### 当社製カレンダーの贈呈

国内の個人株主の皆さま\*に当社製カレンダーをお送りします。

\* 9月30日時点の国内における500株以上の個人株主の皆さまが対象となります。



## 株式の状況(平成16年9月30日現在)

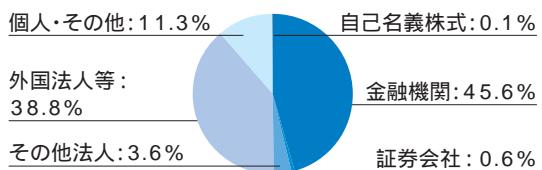
会社が発行する株式の総数	1,200,000,000株
発行済株式の総数	531,664,337株
株主数	38,692名
大株主	

株主名	所有株式数 (千株)	議決権 比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	43,412	8.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	37,442	7.1
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	22,969	4.4
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	20,315	3.9
株式会社東京三菱銀行	17,794	3.4
日本生命保険相互会社	13,019	2.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井アセット信託銀行再信託分・三井住友銀行退職給付信託口)	11,875	2.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託UFJ銀行口)	10,801	2.0
大同生命保険株式会社	9,040	1.7
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	9,034	1.7

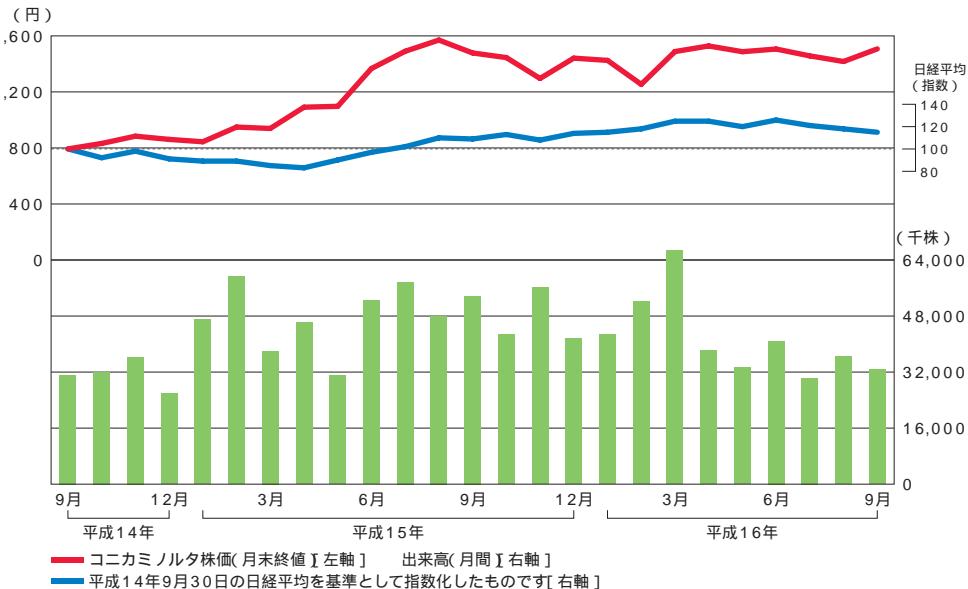
注:大量保有報告書により、以下の各社が当社の株式を相当数保有している旨の報告を受けていますが、当社として中間期末時点における所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めていません。

大量保有者	報告義務発生日	保有株券等の数	株券等の保有割合
フィデリティ投信株式会社	平成16年6月30日	47,187千株	8.88%
キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー(共同保有)	平成16年7月31日	43,786千株	8.24%
モルガン・スタンレー・ジャパン・リミテッド(共同保有)	平成16年9月30日	29,145千株	5.48%

## 所有者別株式分布状況



## 株価と出来高の推移(東京証券取引所)



## おしらせ

本年10月1日より、東京・大阪・名古屋証券取引所での当社株式の所属業種が、「化学」から「電気機器」に変更されました。新聞各紙の株価欄の表示箇所も「電気機器」の欄に変更されていますが、証券コード(4902)の変更はありません。

本年11月、名古屋証券取引所・フランクフルト証券取引所・デュッセルドルフ証券取引所での当社株式取引高が極めて少ないため、当該取引所に上場廃止の申請を行いました。なお、東京証券取引所・大阪証券取引所には引き続き上場しています。

配当金振込指定用紙のほか、当社株式に関する事務手続き用紙(お届出の住所・印鑑・姓名等の変更届、単元未満株式買取請求書、単元未満株式買増請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、名義書換代理人にて電話ならびにインターネットで承っていますので、ご利用ください。

UFJ信託銀行(株)本店証券代行部

受付フリーダイヤル:

0120-244-479(自動応答)\* 24時間対応しています。

0120-232-711(オペレータ対応)\*土・日・祝日を除く 9:00~17:00

インターネットアドレス: <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

# Notice Board

皆さまからの  
アイデアを  
**募集中** します

コニカミノルタは、株主の皆さまとの対話を大切にしながら、企業としての真の姿をお伝えし、皆さまのご理解をいただきたいと考えています。事業報告書も、より皆さんに親しみを感じていただけるよう、これまでの紙面を一新しました。このリニューアルにともない、本誌の新しいタイトルを募集します。皆さんからお寄せいただいたタイトルを参考に、新しいタイトルを決定させていただく予定です。

今後も、皆さんにご愛読いただけるコミュニケーション誌を目指し、進化させていきます。

タイトルの応募先アドレス

<http://konicaminolta.jp/pr/boshu-ir>

募集期間：平成16年12月1日～平成17年2月28日  
平成17年6月発行号より、新しいタイトルでお届けします。



KONICA MINOLTA

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング

総務部 TEL 03-6250-2000

広報宣伝部 TEL 03-6250-2100

(平成16年12月発行)

コニカミノルタのホームページへようこそ！

「株主・投資家の皆様へ」のサイトでは、機関投資家向け決算説明会での説明内容を資料とともに音声でお聞きいただけます（音声は決算発表翌日から約3ヶ月間掲載）。この他にも経営に関する最新情報を随時掲載しています。是非ご活用ください。

掲載内容：トップメッセージ、IRカレンダー、事業報告書、アニユアルレポート、知的財産報告書、有価証券報告書、会社案内、決算短信、説明会資料、年次財務データ、コーポレートガバナンス、経営戦略、株価情報\*、株主・株式情報、決算公告など

\*大和総研 株価表示サービス

<http://konicaminolta.jp/about/investors>



この小冊子は再生紙に大豆インキで印刷しました。

